

5. インド経済の特徴とインド企業のグローバル化

1. 調査の目的

インドは中国、ブラジル、ロシアとともに BRICs と称され、経済発展が注目されている。人口が多く経済成長に伴い所得の向上は、消費市場としても注目を集め、近年は外国からの直接投資が増えている。また、力をつけてきたインド系企業が、先進国企業、途上国企業を問わずクロスボーダーM&A を含めた海外直接投資を活発に行なっている。

そこで、インドの成長持続性と課題を中心にし、インド経済の特徴をとりまとめた。

2. 調査結果の概要

第1章(「インド経済の比較優位要因に関する一考察 - 先行する中国経済との比較も織り交ぜて - 」)は、SWOT 分析によるインドの比較優位要因の分析である。

新興国 BRICs の中で、中国とインドを比較してみる“チンディア：CHINDIA”という造語がある。日本では、中国はその発展振りで良く知られているが、インドは関心の薄い遠い国であった。しかし、中国に10年あまり遅れて改革開放に踏み切ったインド経済は、ITC 時代を迎えて躍進を始めた。その今後の見通しを展望するに際して、この国の持つ強み(strength)と弱み(weakness)、あるいは機会(opportunity)と懸念(threat)材料は何か、つまりマーケティング手法のSWOT 分析に照らし合わせてみて比較優位、比較劣位要因を検討する。その際、比較対象としてもうひとつの大国である中国を視野に置くと、インドのポテンシャルがより分かり易いであろう。この観点から、インド経済の特徴と可能性について、政治的なソフト・パワーの視点も含めて考察を試みる。

第2章(「進展するインド企業のグローバル展開 - 印僑の世界的ネットワークが後押し - 」)は、近年活発化しているインド企業による海外直接投資の特徴を採り上げている。インド企業のグローバル展開は、他のアジア諸国と同様に生き残りをかけたの取り組みに加え、力をつけてきた企業が国際市場に進出することにある。そうした中で、インド企業のグローバル化には世界各地に進出したインド系移住者(印僑)のネットワークがある。

第3章(「インドの貿易構造」)は、インドの貿易の動向を紹介している。近年、情報通信技術を活用したインドのコンピュータ&情報サービスの受取り超過と、海外からの送金による増加をはるかに上回る原油やIT 関連機器などの輸入増加で貿易収支の赤字が拡大している。

さらに本報告書ではインドの最新の経済データ～特に貿易、直接投資関連のデータを収録している。